

授業を応用して製作



船舶用エンジンを併用する「ソーラーハイブリッドボート」を製作した。大型クレーンの操作が体験できるようラジコンを改造するなど、どの作品も素人と

は思えない出来映いだ。「将来は自動車メー

「将来は自動車メー

カーで整備の仕事に就きたい」という川上翼君(ひび)2年は「普段の授業で学んだことが応用できる」。部長の若松和繁君(わか)同

は「授業より楽しい」と、クラブ活動に

「はまっている」様子。顧問の南豊教諭(みな)は「課題への対処法を経験から学べる。完成品がうまく動いた時の感動も味わってほしい」と話す。

1996年創部の前身・ロボコンクラブから、2006年にものづくりクラブに改名。普段の授業を応用したさまざまなものづくりに挑戦している。ロボット競技の「甲子園」とも呼ばれる全国高校ロボット競技大会出場に向け、日々の実践で腕を磨く。

部員7人全員が総合学料の産業技術系列に所属し、自動車の構造や工業機械の扱いな

高校ロボコンへ腕磨く

野辺地西高

ものづくりクラブ



授業で学んだことを応用し、さまざまなものづくりに挑む部員たち。右は南豊教諭

斬新なアイデアと確かな技術で、ものづくりに熱中する部員たち。若松部長は「ロボット甲子園で入賞し、野辺地西の名前を全国に発信したい」と目標を掲げる。